

16/10/6 名古屋市議会経済水道委員会 観光交流局関係(名古屋市民オンブズマン作成)

総務課長 資料説明

江上 本丸御殿の決算 予算どおり

室長 委員ご指摘の通り

江上 特に問題はなかったのか

室長 特に問題はなかった

江上 名古屋城 公告が出された

主幹 12/2 公募型プロポーザル 書類等提出作成にあたり補助していただいた

江上 優先交渉権者を定める 事実上の契約に結びつくのではないか

「平成 32 年 7 月までに完成させる」が大前提でよいですね

主幹 その通り

江上 当時の 6 月議会 木造化という話ではなかった

田辺 名古屋城整備計画 当初から聞いている

本丸御殿の復元

財源フレームは決まっていない

国庫・県負担金 財源フレーム 天守閣で検討したのか?

主幹 具体的な検討はない 国や県に説明したことはある

田辺 国・県の意見は?

主幹 国 昨年度 4 回 県に 2 回行った

検討状況を説明した それ以上の説明はない

田辺 話がなかったのか、こちらから言わなかったのか

主幹 そこまではない

田辺 H27 全額市が持つということになったのか

主幹 昨年 天守閣木造復元が決まったら積極的にお話しさせていただく

田辺 決まってから動いても遅い

本丸御殿 復元で入場者数増 見込まれている

2 期目の公開始まった 1 期目の公開 2 期目今年 6 月

予想した入場者数と

主幹 1 期公開 10%伸びを想定

2 期公開 10%伸び想定していたが、20%伸びている

田辺 2/26 プロポーザル締め切り

北角秘書 意欲のある企業に訪問した事実

承知していない→堂々としていた

業者・北角氏から確認できた

H27 年度 業者との接触の実態は調査したのか

主幹 調査していない

田辺 どうして聞かないのか 好ましくないと言っていた。

どうてい考えられないと言っていた。

どこへ行って何してきたのか確認しなかったのはなぜか

主幹 技術提案について依頼があったということでとどまっている

田辺 企業に対して聞いてきてと依頼した。

北角秘書について確認していない。委員会でも聞いていない。

明らかにしておくべきではないか

所長 本人にも2回訪問して技術提案したと確認していない

田辺 3社の内1社行った 確認した

残り2社に行ったか確認したのか

所長 確認したら1社のみとのこと。

田辺 27年度 技術提案交渉方式 市長に提案したのは誰か

主幹 中部地方整備局から話を聞いた

田辺 大変な混乱の極み 技術提案交渉方式なのか、河村たかしが提案したからか

提案した人に話を聞かないといけないかも

想定されていたのか

主幹 名古屋市としては認識していなかった

田辺 国交省に聞いてみてはどうか

こういう面倒なことになって、提案した人が知らん顔は許されない

14:40 それ以降

15:40

総務課長 説明

局長 今後の進め方に自ら市長が説明したいと言っている

委員長 市長出席 暫時休憩

15:48 休憩

19:00-

市長

江上 それが責任のある態度か

資料3ページ 市長が「耳をかす」2万人アンケート

市長の提案が66%反対 法的整理があるので待っている

入場者数 「税金投入しない」現時点で175万人→50年間360万人

第三者機関に説明を求める

結果的には現時点でも市長が話したとおりに耳を傾けていない

3つ書いてあるが、
・名古屋のシンボル
・実現性のある計画

2020年早急にやれとは書いていない

主幹 厳しい意見が多かった

民間の市民 木造復元賛成 伺っている

江上 厳しい意見しかない 市民の声

耳を傾ける 具体的に取り下げる

あらためて竹中との交渉したい

謝罪もしない

「どうなるか」

「議会が否決をした」 自分の責任をとろうとしない

何らかの判断が必要な段階

いったん議案を取り下げる 否決をすべき

市長からコメントを頂いた

完成 「2022年7月をめど」

公募型プロポーザルに基づいた

概要 事業期間 平成32年7月末

今回 2022年7月 どういう整合性が保たれるのか

主幹 2年延長の理由 委員会で様々な課題

収支見込みの第三者機関 熊本地震を踏まえて調査

名古屋市としてきっちりと調査して実施

今回の条件 竹中に加える要素

その期間 竹中の責めに帰すものではない

江上 公告のどこの箇所に基づき 2022年にできるのか

主幹 竹中 2020年でできると言われている

名古屋市から付加したい

期限を負わせるのは難しい

江上 もう一度聞く 公告のどこの箇所に基づき 2022年にできるのか

主幹 その旨実施公告の中でうたっていない

名古屋市の判断で変えた

江上 大問題 勝手に変える

根拠がないのか

主幹 実施説明書 2020年7月 竹中は遵守できる

加えて名古屋市としてどうするか 竹中をお願いしたい

現時点では法的には問題ない

江上 勝手にやっていいのか
所長 公告書類にはない
公平に選考した
弁護士に相談した上で 公平は保たれている

江上 「弁護士に」2回出てきた 誰が言ったのか
竹中にはリスクは負わないが、他業者からリスクを負うのでは

所長 選考についてはプロポーザル
名古屋市として一部内容変更
問題ないと名古屋市として判断した

江上 公告の箇所を答えられない
一言もない 「一部の事情で」変えていいのか

所長 我々として問題ないと判断

江上 根拠がないのに勝手にやっていいのか
6月議会 市長提案 提案説明に2020年と言っている
いったん取り下げて新たな提案をすべきではないか

主幹 基本設計に関するもの
最初の設計費 大きく変更するものではない

江上 プロポーザル公告で期限が書いてあった
予算の成立を条件とする
大条件は2020年まで
基本設計だけか

主幹 当初は2020年まで。
名古屋市として判断しおおむね2年延長。
設計等を実施していきたい

江上 市会議案 2020年を前提とは書いていない
補正予算の概要 説明した文書
「2020年7月までに完成するため」
議案には書いていないから拘束されない、名古屋市であったか？
そんないい加減なことがあったか

主幹 事例があったかは認識していない
大きく変更されるものではない

江上 一番年齢がある方に答えて

局長 私も記憶がない

江上 異例なことをやっている
なぜそんなことをするのか
取り下げて改めて提案してはどうか

- 2年繰り延べて竹中と契約を結ぶ
訴訟リスクを避けたのではないか
- 主幹 期限の延長 竹中の責めに帰すものではない
事業を推進していきたい
- 江上 竹中の責めに帰すものではない限り取り下げない
訴訟リスク 参加しない、無理だと判断した企業
そういう業者から損害賠償請求 訴訟リスクは検討したか
- 主幹 訴訟リスクが全くないと言うわけではない
恣意的に変更したものではない
竹中に有利に変更したものではない
収支・石垣 一定期間をかけて調査する
訴訟リスクについても対抗できる
- 江上 第三者機関 石垣 6月議会で議論したこと
3ヶ月たった現在理由になるのか
- 主幹 委員会で様々な指摘を受けた
入場者数第三者機関 複数のシンクタンクにヒアリング実施
今後全体の事業費 精査に必要
今回契約した後に竹中に合わせて別途調査したい
- 江上 「補正予算を組んででもやりたい」
全く無責任
リニア開業 熊本地震
6月議会に出てきているのではないか
- 所長 21日委員会資料で報告
設計を進める中で取り組んでいく
2年繰り延べる しっかりと取り組む
- 江上 公告、優先交渉権者 条件を勝手に変える
行政をチェックする立場
絶対に許されない
手続きだけを見ても反対すべき
- 丹羽 市長のコメント
資料請求が無に帰すような内容
新国立 契約した後 契約分の金を払う
名古屋 設計の前
- 主幹 新国立は契約後いったん中止
名古屋 契約の前

丹羽 議事録をチェックした
説明されていない 訴訟リスク
皆さん 訴訟リスク 現段階
議会 2回諮る機会がある
ふたを開けてみると進んでいる
皆さんの中で止めることができない
皆さんも分からなかったのか

主幹 こういうことを想定したものではない
予算の成立が条件
2万人アンケートの結果 今回は総合的に判断
予算を提出しないという判断もあった
訴訟リスク 実施説明書 大きく認識はなかった

丹羽 新しい入札制度 いろんなリスク想定
委員会で説明すべきだった だまし討ち
「議会に対して質問されなかったから答えなかった」
真摯の態度で
江上質問 議事録を読むと 3/15 2020年ではない場合
アンフェアではないか
間に合わない場合 →局長 募集をした必須条件
それに対する提案
優秀提案を
間に合わない途中で明らかになった場合、それは振り出しに戻す
再出発が当然
市長 2020年→2022年 答弁 「明らかになった場合」に適合する
局の最責任者の答弁をどう考えるか

主幹 「アンフェアにならないように」局長答弁は認識
アンフェア 竹中の落ち度がない
現在の判断を

丹羽 竹中側からみたアンフェア
応募しなかった業者からみたらアンフェア
あきらめた業者 むちゃくちゃアンフェア
局長答弁に対して主幹では答えになっていない
局長答弁を求める

局長 今回の見直し その後の事象によって判断が変わる
委員会審議 社会的要請
アンフェアにならない範囲で行政が判断していると認識

丹羽 驚いている
議事録の重さは残る
議員の発言「精査して下さい」
そんな軽いものなのか
技術提案書の中 一番上 大きい記載
諸事情で変える むちゃくちゃ
そんな人が局長していいのか
今回出し直しすべき そこに公募があるかわからない

田辺 冒頭 市長コメントを頂いた
正直なところ戸惑っている
咀嚼をして理解をし、市長の考え方を理解するのは時間が必要
重要なことをさらりと言われている
責任ある対応 困惑
聞きようによってはなぜ竹中にこだわるのか
訴訟リスクを警戒している
市長個人への責任追及警戒？
そうではないという趣旨 前向き？後ろ向き？
市民の方？業者の方？
訴訟リスク 2 ページ 訴訟リスクがないのは明らかである
「新国立の二の舞になる」
総理大臣が政治的に止めた
困難な設計 世論が一斉に異を唱えた 精算
名古屋市 締結に至っていない
精算すら必要がない 資料を見る限り訴訟リスクはない
この資料 その理解でよいか

主幹 原則その通り
中止条件にあたるかどうか

田辺 訴訟リスクがないのに拘泥するのは何が目的か
極めて低い 0.001%
どこの馬の骨かわからない弁護士の言い分 主張のよりどころ
信頼するに値しない
市長の真意がつかみにくい
コメントの通り理解 何をしたいのか分からない
2020年7月オリンピック 多くの観光客 がスタート
竣工期限 2020年7月名言

「パラリンピック閉会後に竣工しても意味がない」質問
4年半に間に合えばよい
そもそも文化庁との交渉、やり直し
本丸御殿 1年半
申請・審査の期間
2022年 どうでもよくなってくる

主幹 当初オリンピックがチャンス
世界にアピールする機会
6月いろんな課題を頂いた
解決していく中で石垣等調査を踏まえて検討
工期を2022年を見据えて

田辺 2022年ですら動く可能性が払拭できない
保障できない 振り出しの議論

主幹 基本は2020年 今後竹中の責めに帰さない場合2022年

田辺 そこまで聞いていない
4年強の工期 相当無理をしている
いつ完成してもよいのにわざわざ突貫工事が必要か？
次のオリンピックになっちゃう
市民が認められるのか
市民になんと説明するのか
試験の日が決められているから徹夜して勉強する
試験の日が決まっていなければ徹夜しない
突貫工事をする意味があるのか

所長 2020年7月を目指していたのはその通り 1日も早くは市長が述べた
4年半 工期が突貫か 竹中が提案した優秀提案
専門家にも選定してもらった
技術によってきちんとできる

田辺 4年半 限られた工事と 期間決まっていない工事
特急工事だから504億円
市長「理にかなった費用」
急がなければ150億円 押さえられるかもしれない
われわれはどう市民に説明できない

所長 問題があるとは認識していない

田辺 夜中工事しないのだね？

所長 協議の中で回りの影響を考えて

田辺 夜中に工事する必要がどこにある？労務単価が上がる

昼間やればよい
弁護士の見解を聞いてみた
優先交渉権者 交渉する権利を優先でうけるもの
「必ず契約を期待」するものではない
という弁護士の見解もある
ただ単に優先的に交渉するだけ
次点交渉権者がいる

主幹 委員ご指摘の通り

田辺 そういうこと

藤沢 2022年新提案

一部会派にあったよう
竹中とは2022年について協議したのか

主幹 竹中に話していない

藤沢 竹中「2020年7月 できる」

遅くなることだからできる

材料、人夫

延びたからできるという訳ではない

「対応していただけるか」確認しないと始まらないのでは

主幹 2022年7月 話をしていない

今後協議をしていく

藤沢 議会の審議がどうなるか

議会が明日意志決定するかもしれない

すこし考える必要があるのでは

訴訟リスク 仮に新提案 2022年7月 竹中とやる

仮に議会が可決した場合、議会に対する訴訟リスク

決定した議会に責任が及ぶか

われわれは認める立場

訴訟リスクが存在するのではないか

主幹 審議の結果 可決になった場合の訴訟リスク

第三者から訴えられて負けたとしても議会の責めはないと聞いている

藤沢 市長「議会が王様 議会が議決した」

すべて市の責任だと市長は思っているのか

主幹 名古屋市として責任があると、市長もそう思っている

藤沢 今回 市長譲歩

私からすれば 2026.27→2022

後退している
2022「譲歩した」 それはどうなのか
所長 2026.27 市長も真剣に検討したが難しい
2022 をあらためて提案した
譲歩ではない
いろいろな検討の中で
藤沢 市長の言葉の軽さがあった
思いがあるが、言葉が余りにも軽すぎた
今後とも議会と手を携えながら
いろんな所に顕在化
来年4月に市長が出られるか知らないが、言葉に重みをもって
今でもだいぶん混乱
また変更 なんととも言えない状況

木下 これだけの問題 市長に責任がある
市民アンケート 2020年7月 5割賛成したら同調しないと
逆に2割しかなかった
大きな分岐点 議会としてはもしかしたら賛成したかも
結局 2022年7月 こじつけにしか思えない
1日も早く実現してほしいという気持ちは分かるが、考え方が甘い
急いで504億円 延ばせば安くなる
10年 2026.27年 安くなるとゼネコン関係者から聞いた
理由 こんなことははじめから分かっていること
2020年ができなくなったから 2022年 こじつけ
市長のコメントを聞いていい加減
一貫していることは竹中でやりたい
市民の意見
いったん引っ込めては
主幹 市は中止する条件に当たらない
現時点では竹中と進めたい
木下 いい加減な答弁
見直し 弁護士から意見
別の弁護士から意見がある
どれだけの弁護士から聞いたのか
責任を問われない
主幹 法制アドバイザーと実施説明書を作った際の弁護士

優先交渉権者として竹中を選んだ
中止条件にあたらぬ場合、事業を進めていく

木下 何とでも言える

事業実施計画 2020年まで

竹中は選ばれた あきらめたところ

何とでも言える 名古屋市の信用

信義則 あまりにもいい加減なこと

憤慨している

田辺 本日時間が遅くなっている

大きな方針転換 もっと審議が必要だと考える

明日も審査が行えるようとりはかってほしい

委員長 本日はこの程度

明日再度質疑をしたいがよいか

委員会記録は

午前11時 意志決定を行った後総括質疑